

令和元年度 南アルプス市 まち・ひと・しごと創生審議会 議事録

日 時 : 令和元年8月2日(金) 13:30~15:10
場 所 : 地域防災交流センター 多目的ホール
出席者 : 別紙
議 題 : まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について

次 第

1 開 会

2 委嘱状交付

3 市長あいさつ

4 会長・副会長の選任

5 会長あいさつ

6 自己紹介

7 議 事

(1) まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要について

資料1 まち・ひと・しごと創生人口ビジョン【概要版】

資料2 まち・ひと・しごと創生総合戦略【概要版】

参考資料1 まち・ひと・しごと創生人口ビジョン

参考資料2 まち・ひと・しごと創生総合戦略

参考資料3 まち・ひと・しごと創生総合戦略アクションプラン(個別施策工程表)

(2) まち・ひと・しごと創生総合戦略進捗状況について

資料3 市まち・ひと・しごと創生総合戦略重要業績評価指標(KPI)一覧

資料4 市まち・ひと・しごと創生総合戦略アクションプラン記載事業一覧

(3) 今後のスケジュールについて(資料5)

8 閉 会

司会進行：事務局（政策推進課課長）

今回まち・ひと・しごと創生審議会ということで、皆様方へ委員のお願いをさせていただいた。本審議会は、まち・ひと・しごと創生法に基づいて、市が定める総合戦略について、調査・審議・検証するために設けている。

本年度は切り替えの年になっているので、委員任期は今年度・来年度の2年間となるのでお願いします。

1 開 会（総合政策部長）

ご存知のとおり、平成20年に日本の人口が減少になり、地域の維持及び人口の減少という大きな課題を克服するため、まち・ひと・しごと創生法が平成26年に公布された。本市としても法律の趣旨を踏まえて、課題解決のため平成27年に総合戦略を策定し事業を展開してきた。そして、今後更に発展するように、各方面から選ばれた皆様のご意見を聞きながら進めていきたい。

2 委嘱状交付

市長から委員（代表者）へ委嘱状を交付する

代表者：軽部 妙子 様

委員任期：令和元年8月1日～令和3年7月31日

3 市長あいさつ

南アルプス市まち・ひと・しごと創生審議会の開催に当たり、一言ごあいさつを申し上げます。

本日はお忙しいところ、本審議会にご出席して頂きまして、誠に有難うございます。

また、日頃から市政の運営にご協力を頂き、この場をお借りして厚くお礼を申し上げます。

全国的な高齢化・少子化により、本市の人口も平成22年から減少傾向にあります。人口減少が続くと地域経済の縮小を呼び、地域経済の縮小が、更に人口減少を加速させるという負のスパイラルに陥るリスクが高まります。

こうしたことから、人口減少に歯止めを掛け、地域経済を含めた本市の抱える課題を解決するため、平成27年度に「まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」及び「総合戦略」並びに「アクションプラン」を策定しました。

現在、地方創生への取り組みとして、総合戦略で設定した「4つの基本目標」の実現に向け、全庁体制で、アクションプランに掲げた事業を展開しているところであります。

総合戦略には、重要業績評価指標・KPIを設定しており、事業の進捗管理・効果検証を行うこととしています。

今年度は、総合戦略の対象期間の最終年度に当たるため、総合戦略に掲げた各事業の進捗状況について、皆様方から、知識や経験に基づくご意見等を頂き、評価を行います。その後、第二次総合戦略を策定しますので、例年よりも審議会の回数が増えますが、委員の皆様のご協力をお願い申し上げまして、簡単ではございますが、ごあいさつとさせていただきます。よろしくお願い致します。

※公務のため市長退席

4 会長・副会長の選任

審議会条例第5条第2項で委員の互選となっている。

執行部一任の声をいただいたため、事務局案として前回に引き続き、会長を商工会専務理事の塩谷一郎委員、また副会長をやまびこの会会長の名取和江委員を提案する。

異議なしにより、会長を塩谷一郎委員、副会長を名取和江委員とした。

5 会長あいさつ

人口減少が激しく超高齢化社会になっているということで、平成27年度から内閣府において、各自治体が総合戦略を策定し独特の事業を進めるよう要請した。人口を増やす、仕事を増やす、働きやすい子育て環境を作る、かつ安全な地域を作る、という目的で各自治体が努力した政策を出してほしいとのことであった。

平成27年度に南アルプス市は総合戦略及び78のアクションプランを策定し、国に申請した。最初の1、2年は国からの補助金が交付されたが、ここ3年は補助金の交付が無い。国では予算を1600億計上しており、市町村の競い合い、アイデアの出し合いなので、次年度以降ユニークな施策をやってほしい。1、2つでも良いので、委員の方々含め皆で考えて良いアイデアを考えてほしい。

来年度は中部横断自動車道が開通し、南アルプス市も非常に変わっていくので、ユニークな事業を行うために、皆様の知恵とアイデアをお借りしたい。

6 委員・事務局の紹介

各委員及び事務局より自己紹介を行う。

7 議事 議長（塩谷会長）

(1) まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要について

説明：事務局（政策推進課）

資料1を基に人口ビジョンの概要、資料2を基に総合戦略の概要の説明を行った。

(2) まち・ひと・しごと創生総合戦略進捗状況について

説明：事務局（政策推進課）

資料3を基に、総合戦略の重要業績評価指標（KPI）の説明を、資料4を基に総合戦略アクションプラン記載事業の検証・評価について説明を行った。

【質疑応答】

議長：今回の会議はこれまでの事業の検証評価となり、次回の会議以降で次期総合戦略についての検討となるが、今後につなげるため、感想や意見等があればお願いしたい。

A委員：78あるアクションプラン記載事業の最終的な経緯を説明いただいたが、地方創生の総合戦略、確かに、自分のまちだけが隣から人口を増やせばいいというものではないので、今後当然継続をしていく事業も沢山あると思われるが、この中に担当者の考えも細かく書いてあるが、今後担当者の考えも精査した中で、実際に予算に対し議会も役割を果たしていかなければならない。

また、実績がなく、中止になった事業もあったが、当然スタート時の思いもあり工夫を凝らしただろうが、これがダメだからあれをではなく、なぜその事業が形として効果が出なかったかの検証もしっかりやらなければならない。

実際本市の特徴を5年間の中で総括的に評価していかなければならないと改めて感じた。いよいよ地方創生第二期に入るので、議会は創生審議会に注視して積極的に意見を出し合って参加したい。

B委員：策定した人口ビジョンを達成する総合戦略を平成27年に策定する中で、過去の総合計画を踏まえて実行する上で、特色を持たせたのは78のアクションプランの中でどの項目か。

また、27年から今日までに反省点があれば総合計画以外でも総合計画を補完するような政策を創設する必要があるのではないか。その点についてどの様に考えているのか。

事務局：市の計画については、総合計画が最上位計画になっており、総合計画を踏まえた中で、当時総合戦略も作られた。ただ総合計画では、詳細な事業まで指定していないため、総合戦略の方が詳細な事業が載っているかと思う。その中で、ピックアップして78事業のアクションプランを定めた。

例えば子ども医療費の18歳までの拡大、保育料の多子軽減無償化の対象年齢の拡大、ベビーベッド貸出、おむつ代補助等は、総合戦略で策定した子育て支援策を推進するために新たに作った事業である。総合計画と関連性を持たせながら、総合戦略は作られた。

冒頭に説明した4つの基本目標に沿って、仕事づくり、交流、子育て支援、各地区の連携の中で既存事業を含める中でピックアップしている。

A委員：先程の議会の立場という話の中で、私も当時参加したが大きな取り組みの中で繰り返し言われているのが、PDCAサイクルの確立である。1年間で回すものや年間を通じ何回も回すものもあると思われるが、それに対応する審議会の開催というのを念頭に置いて今後やらないと、私たちがその都度今どの立場なのか、来年度を見据え予算を考えるべき時期なのかが分からなくなる。回数をやればよいわけではないが、PDCAサイクルに即した審議会を行うことで、より生きた審議会になるのではないかとと思う。

事務局：これまでは年1回で年度の実績に基づいて実施してきたところであるが、今年度は第二次の計画を策定するので、全体を振り返っての検証も必要となってくる。また、先程の矢崎議員の反省点という言葉は、当時はこういった形で指標や事業を掲げたが、計画策定から4～5年を経過し、多少指標でも数値がつかみ切れていない事業や、目的に沿った事業構成がされていないものもあるため、一次の計画を評価する中で反省すべきところを含めて第二次計画を策定に向かいたい。

C委員：KPIの4ページ一番上、子育ての環境が整っている市民の割合が、30年度は43.2%だが、28、29年度は50%以上となっている。また5ページ公共交通の便利さに関する満足度については、30年度は14%だが、28、29年度は24%、22%と10%程度高い。これを見ると満足度等の抽象的な聞き方をしているものは28、29年度が高く30年度は落ちている。それにはどんな理由があるのか、KPIとして妥当なのかどうかを含めどう考えているか教えてほしい。

事務局：市民アンケートは市政運営において非常に参考になる数値と捉えているが、進捗度を測る上で不特定多数の方から聞いているため、パーセンテージはそれぞれ聞く人によって異なってくる。波打ったり、全然変わらなかったり、事業進捗を測る指標としては向いていない指標もある。二次計画にはできるだけ数値で客観的で判断できる指標設定を行う。アンケートにしても、子育て支援であれば子育て世帯に限ったアンケートを考えていきたい。それから28、29年度の実績があがったのは、推察の域だが、28、29年度の時に子ども医療費の助成対策が小学校までであったのが18歳までに拡大したことや、保育所の多子軽減拡大などがあり、子育て支援について大きな事業の改革があった。市民ニーズが多いものに対応したため満足度が上がったと思われる。コミュニティバスも同様に今まで走っていないルートに路線が走ったら上がるが、それが当たり前になり慣れるとまた若干下がり、新しい支援の要望がでてくるので、ピークを迎えて下がり、施策を展開すると上がるという繰り返しだと考えている。

議長：議長から意見だが、現在78項目はここまでアクションプランに掲載する必要があるか、絞り込んで10でも15でもいいから、南アルプス市はこれをやるというのを考えた方なければならない。取り分け中部横断自動車道が開通するため、人の流れが加速する時期となる。それから今商工会企業が困っているのが人手不足である。外国人雇用に頼らないと乗り切れない。外国人雇用の受け皿づくりをどういう風にしていくか、もっと南アルプス市に課せられた課題を絞り込んだ施策をしないと。78も色々あるが、もう少し全体の流れの中では、とにかくこのまちへ人の流れがきて仕事があって、そういう焦点をあてたものを絞り込んでいただきたい。

事務局：議長の言う通り、第二次はもう少しまちづくりという軸を持った中で絞り込んで計画を策定したい。今の計画を策定した当時は、補助金が付くというのが前提だったので、多くの事業を挙げた方が有利になるのではないかとということもあり、浅く広くなってしまったので、本当の意味でまちづくりの意味を持たす中で策定、事業の選択をしていきたい。

事務局：当時5年前職員全員で考え、できる限り出して補助金を取りたいということがあった。私は財政にいたので、補助金が取れなければ非常に市にとって重荷になるので、PDCA サイクルを回しながら、もし補助金を取れない効果が上がらないのであれば、早めに止めることも検討いただきたいと申し上げていた。ここで厳しい意見をいただきながら絞り込めるのであれば、また新たにユニークな事業があれば提案いただきたい。

D委員：議長の意見の反対的な内容になるが、今は一人でも多くの意見を聞きながら行政は進む時代である。補助金目当てでは無く、なるべく多くの事業を皆の意見を聞きながら進めた方が良いと思う。助成金・補助金目当てで成功した例がどれだけあるのか、地域のためにならないと思う。どのくらいの事業が地域のためになったか検証してほしい。

議長：皆の意見を聞きながら検討していきたい。提案だが、各担当課だけで事業を考えるのではなく、若い人の知恵を結集し、横断的なプロジェクトでチームで1つ施策を考えれば良いアイデアが出るのではないかと。次回の会議何回かあると思うので、検討をお願いしたい。

(3) 今後のスケジュールについて（資料5）

資料5に基づいて今後のスケジュールについて説明

次回は9月下旬を予定。本日報告した進捗状況の検証を報告したい。また次期の総合戦略の検討も併せて行っていく。11月下旬に第3回、年明け2月に第4回を行う予定

だが、このとおり進まない場合もあるがよろしくお願ひしたい。

8 閉 会（名取副会長）

今日実績目標の数字を見て、本当に動いていると感じた。目標に達していない事業も多くあるが、南アルプス市に住んで良かったとの思いはどの住民にもある、そのために色々なこういうことを検討することが重要だと考える。

先日知り合いが南アルプス市に住んで家を建てた。いいところに立てたとのことで、近所の人々が昔からいる人のように接してくれる。町を作るには人がいる、人が動くには仕事がある、人を育てないと町ができてこない。

認知症の人が家に帰れなくて市役所で放送をしていただく。警察へ届けて防災無線を流していただいてそれが一番の見つかる手立て。ただ見つかりましたという放送はない。市役所にお願ひしても、無線への苦情があるのでしてくれない。そのところをどうか自分事として考えていただいて、ああ良かったと思いができる街にしていきたい。お寺の鐘もつかなくなったのも苦情からであり、そんなまちでないようにこのまちを作っていかなければならない。仕事は大事で、そして色々なことを大事にして人を作っていくためにこの会があればよいと思う。

以上で審議会を終了する。